

令和7年度 第3回総合計画審議会 会議記録

■開催概要

- 1 日時 令和7年10月10日（金）午後3時～午後5時
- 2 場所 第2委員会室
- 3 委員の出欠状況 19名中13名（うち2名書面による意見提出）
- 4 事務局職員

小野企画経営部長、鈴木企画課長、阿部企画課課長補佐、新沼副主幹、近藤主査

■会長あいさつ

△お忙しい中参集いただき感謝する。

総合計画の旗揚げにあたっては、探求心を持ち、市民の声や日々の気づきを見逃すことなく計画へ落とし込んでいきたいと考えている。また、審議会も後半に差し掛かっているため、委員の皆様にはこれまで以上に積極的かつ鋭い御発言をいただきたい。

■議事事項概要及び結果

会長により、以下のとおり議事進行

意見交換

【政策1】

△政策1について、4ページ記載の自主防災組織数の推移のグラフがなぜ消防団員数の推移のグラフに変更されたのか、理由を教えていただきたい。（委員）

→（企画経営部長）自立的に活動している消防団の取組を、前面に出していく意図がある。

→（委員）消防団員数は減少傾向にあり、高齢化も進んでいる。こうした世の中の流れを団員数の推移として示すのは、少し違和感がある。

→（会長）年齢構成比や人口比など、別の指標で示すのも一つの方法ではないか。

△同じく4ページ記載の津波浸水想定だが、大雨被害の要素を加えても良いのではないか。（委員）

→（企画経営部長）内水ハザードマップを組み込む予定である。

△5ページ記載の防災アプリ・メール登録者数とは、多賀城市独自のものか。県のシステムとの関係性や連動が明確になれば、登録者数も増えるのではないか。（委員）

→（企画経営部長）防災アプリ・メールは多賀城市独自のものである。現時点では県のシステムとは連動しておらず、この点については今後の検討課題としている。

△津波警報が出た際に、大型車両や重機車両での避難がうまくいかなかつたという事例があった。

4ページ記載のスケートパークやスポーツウェルネス施設の項目においても、車両避難場所の確保について記載していただきたい。（委員）

→（企画経営部長）現状、東北学院大学跡地は不陸ではないため、積極的に情報公開はしていない。ただ、御指摘のとおり、車両避難場所の確保は課題であると認識しているため、担当課に伝える。

→（会長）BCP訓練の実施も非常に重要。あわせて取り組んではいかがか。

△欠席者から、政策1に関連して、「10月1日に短時間大雨情報が出た際、至るところで冠水が起き、水が溜まりやすい場所を改めて把握できたと思う。それを踏まえて、災害時の拠点施設を活用できないという状況にならないよう、排水対策や、拠点施設につながる道の整備をしていただきたい」という意見があった。（事務局）

▽ 10 ページ記載の運転者の高齢化についてだが、これは単に現状を記載しただけなのか。それとも実際に何か施策に結び付けるための取組を行っているのか。（委員）

→（企画経営部長）現在、あいおいニッセイ同和損保と連携し、高齢者の免許返納を促す取組を行っている。こういった細かい事業としては実施しているものの、後期計画において新たな事業として位置付けているものは特にない。

→（委員）高齢者に免許返納を進めるのか、それとも高齢者の元気を維持することを目的とするのか、多賀城市の方向性はいかがか。

→（企画経営部長）両方の視点を持って取り組んでいきたい。実際に、今後は免許を返納した市民も移動手段を確保できるよう、路線バスの無償化を検討している。

【政策 2】

▽政策 2について、全体を通しての記載を「障害」ではなく「障がい」としたほうが良いのではないか。（会長）

→（企画経営部長）法令に準拠する形で対応しているため、検討する。

→（会長）他の市町村の記載も参考にしていただきたい。

▽ 12 ページ記載の人口減少についてだが、これは避けられない現象ではないか。（委員）

→（企画経営部長）全国的な傾向として人口減少は避けがたいが、多賀城市は他の自治体と比較すると減り幅が小さい。「地方創生 2.0」という国の戦略では、1.0のときのように「人口減少を克服する」とはせず、「人口減少を受け止めた上で対策を講じる」としている。今後は、市民が暮らしやすいと感じられるような環境づくりに重きを置いた受け入れ体制の整備を進めていきたい。

→（会長）人口が減少しても、地域コミュニティの繋がり方を工夫すれば、まちの活性化や若返りは可能である。

▽多賀城市長が「縮充」という言葉を使用していたと記憶しているが、計画のどこかに盛り込むと良いのではないか。（委員）

→（企画経営部長）縮充については、すでに計画全体を通して盛り込んでいる。

▽ 18、19 ページ記載の健康寿命について、定義はどのように設定しているのか。（委員）

→（企画課課長補佐）要介護 2 以上であるかどうかを基準として、健康寿命を定義している。これは厚生労働省が公表している数値に基づいているため、資料内にもその旨を明記したい。

▽ 17 ページ記載の「市の相談窓口を知っている保護者の割合」を、「誰かに話したことのある人の割合」に変更した理由は何か。（委員）

→（近藤主査）新型コロナウイルス感染症の期間を経て、ネットを通じた相談など、手段の幅が広がった。市の窓口に直接来なくても相談できる環境が整ってきたために変更したものである。

→（委員）「誰か」というのは、行政なのか、家族なのかで意味合いが変わってくる。認識の違いによって結果に差が出るのではないか。

→（新沼副主幹）この指標は、市民アンケートの設問を指標としている。アンケートでは、「家族、友人・知人」の他、市役所だったり施設だったり、複数の選択肢を提示しており、その中から該当するものを選んでいただいている。

▽ 21 ページ記載の「発達相談」を「発達検査」に変更した理由は何か。（委員）

→（近藤主査）目指す姿として掲げる適切な療育と専門的な相談へ内容を寄せるため、発達検査を指標として採用した。

▽ 19 ページ記載の「認知状況」と「認知症」とで、同じ表現でありながら意味が異なるため、読

んでいて分かりづらく感じた。表現の工夫をお願いしたい。（委員）

【政策3】

▽政策3について、24ページ記載の「保護者の孤立化」とは、具体的にどういった状況を指しているのか。（委員）

→（会長）例えば、シングルマザーや貧困、あるいは心の病を抱えているなど、そういった保護者へのカウンセリングの必要性ということか。

→（企画経営部長）お見込みのとおりである。

▽27ページ記載の豊かな心の育成について、「学校内」に限定して記載されている理由は何か。学校外も含めて良いのではないか。（委員）

→（企画経営部長）この項目は学校教育の指標として設定しているため、学校教育の現場における取組に焦点を当てた形で記載している。

→（委員）調整を御検討いただきたい。

▽30ページ記載の「多様なスポーツ」だが、スケートパークのことを指す内容であれば、スポーツはスケートボードだけではないか。他のスポーツも含まれているのであれば多様という記載も納得できるが、表現に違和感がある。（委員）

→（企画経営部長）御指摘の点については、3×3コートなどの公表できる内容を含め、表現の調整を検討する。

→（委員）中央公園では元々野球やサッカー、グラウンドゴルフなどの多様なスポーツができる。そこに新たにスケートパークが加わるという位置付けで表現を調整していただけすると、より実態に即した内容となるのではないか。

▽32ページ記載の「身近に感じる」という表現を「誇りを感じる」に変更した理由は何か。シビックプライドという観点に色を付けるのであれば、「誇り」よりも「愛着」の方が近いのではないか。なぜ「誇り」という表現を選んだのか。（委員）

→（企画経営部長）市民アンケートなどの結果を見ると、すでに一定の認知が広がっている。そうした状況を踏まえ、身近や愛着という段階を超えて、さらに一步進んだ誇りを持ってもらいたいという思いから、この表現にした。

→（委員）市民アンケートの6ページ記載の文化財等についてだが、この設問にはどのような意味や意図があるのか。

→（企画経営部次長）担当課では、まだ市内の文化財等を認知していない市民が多いという認識を持っている。アンケートの内容を通じて、どこに力を入れていくべきかを把握したいという意図がある。

▽政策3について、多賀城政庁跡の県による整備をどこかに記載しても良いのではないか。（委員）

→（企画経営部次長）政庁跡の整備については、まだ最終的なゴールが定まっていない状況。ただし、県との話し合いは進んでいるため、記載内容については検討する。

【政策4】

▽政策4について、「ゼロカーボン」と「脱炭素」のどちらの表現を用いるべきか、検討が必要。創エネの要素が含まれているのであれば、「ゼロカーボン」か「カーボンニュートラル」という表現が適切ではないか。文言の修正を求めるものではないが、表現の調整という観点で御検討いただければと思う。（委員）

▽37ページ記載の再資源化等の促進についてだが、循環型社会に関する新しい取組として、何か意識的に盛り込むものはあるか。例えば、徳島県ではリサイクルによって収益を生み出すよう

な先進的な取組が行われている。多賀城市としても、何か野心的な取組があれば良い。（会長）
→（企画経営部長）多賀城らしい色を打ち出すことで、そうした方向性に近付く可能性はあるが、現時点では後期計画の中で具体的な施策は計画していない。

→（会長）今後、リサイクルの取組は非常に重要なフェーズに入ってくる。多賀城市は歴史や文化を大切にするまちだからこそ、そうした視点を活かした循環型社会の取組を進めていただきたい。

【政策5】

▽政策5について、45ページ記載の商工業経営力の向上だが、事業者数が多ければ経営力が向上するというわけではない。市に魅力があるからこそ事業者が増えるという側面がある。表現について、代替案を検討してみても良いのではないか。（委員）

→（企画経営部長）御指摘の点については、表現のあり方も含めて検討する。

▽46ページ記載の地域資源だが、貴重な資産を「資源」と呼ぶことに違和感がある。資源という言葉には、使いっぱなしのような印象があるため、言葉の選び方に慎重さが必要ではないか。例えば「地域価値」といった表現も考えられる。（会長）

→（企画経営部長）社会全体としては使いっぱなしの傾向もあるが、本市としてはそうではない。

→（会長）的確な表現の検討をお願いしたい。

▽45ページ記載の起業・挑戦を促す風土の醸成について、「風土」という表現は急にスケールが大きくなる印象がある。ここでは「機運の醸成」といった表現で良いのではないか。（委員）

→（企画経営部長）御指摘の点については、表現のあり方も含めて検討する。

→（会長）「風土」という表現については、批判的な意見が寄せられることもある。今回の計画においては、より適切な表現への調整をお願いしたい。

【政策6】

▽政策6について、53ページ記載の「市民文化」の定義が不明確であるため、具体的な意味を明示していただきたい。（委員）

→（企画経営部長）簡単に言えば、市民が自立的にまちづくりに参加する輪が広がっていくことを指している。

→（委員）解説を盛り込んでいただきたい。

▽欠席者から、政策6に関連して、「共生社会の推進について、資料上ではどうしても性的マイノリティや国籍に特化しているように見える。もう少し広く様々な項目で使われるべき文言だと考える」という意見があった。（事務局）

【政策7】

▽政策7について、56ページ記載の「年休取得率」に育児休業の取得率も含めてはいかがか。多賀城市では、男性の育休取得率も高いと聞いており、積極的に評価すべき点だと思う。

→（企画経営部長）検討する。

▽全体的に組織改革に関する記載が多く、市民との距離や職場内の人間関係に関する記述が少ない印象。効率性だけを追求するのではなく、多賀城らしさを活かした方向性を検討していただきたい。（会長）

→（企画経営部長）まちを豊かにするための「みらい基金」を創設している。納得が得られれば、思い切って活用できる財源である。

→（会長）多賀城市的持つそうした優位性についても、計画の中に記載して良いのではないか。

【全体を通して】

▽市民アンケート9ページ記載の問57、問61について、それぞれの設問の意図が分かりにくく

感じた。特に、問57における60代以降の年代区分を細分化する意味をお示しいただきたい。

（委員）

→（近藤主査）問57の年代区分については、60代以降になると就労状況に差が出てくるため、年代を細かく分けることでその違いを把握しやすくしている。問61の地区区分については、各施策を検討する際に、地域ごとのニーズを把握する必要があるため、詳細な区分を設けている。

▽市民アンケートについて、単純集計ではなく、年齢の段階に分けたクロス集計を行う必要があるのではないか。（委員）

→（近藤主査）クロス集計は実施しているため、御安心いただきたい。

▽東北学院大学工学部跡地について、何らかの形で施策を取り巻く状況の中に位置付けることはできないか。動向として記載しても良いのではないか。（委員）

→（企画経営部長）現時点で、この5年間の計画期間内で具体的な記載は難しいかもしれない。

▽市民アンケート5ページ記載の問38について、「商店」という表現だと昔ながらの店舗を想起させる。「小規模店舗」など、より現代的な表現に変更できると良いのではないか。（委員）

▽市民アンケート8ページ記載の問55について、問い合わせの意図が分かりづらい。設問の構成や表現の方法に工夫が必要ではないか。（委員）

■事務局からの連絡

▽次回は令和7年12月10日、12月19日の計2回開催予定。別途メール等で御連絡させていただきたい。

以上